

会 議 録

1 会議名

平成26年度第8回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議につなげるための津有区の現状分析について（公開）

(2) 地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成27年2月17日（火）午後6時30分から午後7時55分

4 開催場所

公民館津有分館 中会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：太田晃、小川和夫、手嶋千恵子、服部香代子、平岡一夫、古川三男
牧繪雄一郎、牧野嶋剛、町田敏章、丸山彰、丸山美和子、丸山百合子
横田芳友（欠席2人）

・事務局：中部まちづくりセンター 北島センター長、恩田係長、小林主事

・体育課：平原係長

8 発言の内容

1 開 会

【小林主事】

定刻になりましたので、平成26年度第8回津有区地域協議会を開催いたします。本日の出席人員は13名です。草間委員、菅野委員からは欠席との連絡を頂いております。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立することを報告します。

2 挨 拶

【小林主事】

はじめに、町田会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【町田会長】

皆さんご苦労様でございます。立春も過ぎたのですけれども、寒さがなかなか落ち着きませんので、体に気を付けていただきたいと思います。それで、本日は議題としまして、自主的審議につなげるための津有区の現状分析についてということで、昨年末に新潟県の県立武道館が上越市に造られるということが決まりまして、その基本計画が出来たということでございますので、体育課の担当の方からご説明を頂きながら、意見交換をさせて頂きたいというのが1点あります。

それと、今後の自主的審議事項の方針についてということで、フリートークを30分くらい計画しています。

もう1点は、平成27年度の地域活動支援事業の審査スケジュールにつきまして、皆さんと内容を詰めていきたいという、この2点でございます。ということで、これから会議を開催させて頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。

【小林主事】

ありがとうございました。それでは、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長から議長を務めていただきます。町田会長、よろしくお願いします。

【町田会長】

それでは、以降の議事進行を務めて参ります。今程お話しました、審議事項を含めまして、午後8時前には終わりたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。また、本日の会議録の確認者は丸山彰委員にお願いします。

3 議 題

(1) 自主的審議につなげるための津有区の現状分析について

【町田会長】

それでは、今程申し上げました、議題の(1)自主的審議につなげるための津有区の現状分析についてということで、先程もお話しましたがけれども、県立武道館の基本計画につきまして、体育課から説明を頂きまして、その後質問やご意見等があれば発言して頂きたいと思っております。意見交換については、7時くらいまで行いたいと考えております。

それでは早速でございますけども、体育課の方よろしく申し上げます。

【体育課：平原係長】

皆様、お疲れ様です。体育課から参りました、平原と申します。よろしく申し上げます。本来ですと、体育課の課長が参るところなのですが、今日は他で公務がありまして、施設係長の平原が参りました。よろしく申し上げます。

— 資料に基づき説明 —

【町田会長】

皆さん、今程ご説明頂いた内容で、何か発言をなさる方がいらっしゃいましたら、申し上げます。

【古川委員】

今、説明して頂いた競技の他に、例えば武道ですと、空手とかレスリングとか、そういう項目もありますけれども、そういうものが出来るようなシステム、設備になるんですか。

【体育課：平原係長】

県立武道館の今の基本計画に至るまでには、やはりその道場の多目的利用ということも、基本構想検討委員会の中では検討されています。その中で、確か「多目的に利用できるものが望ましい」ということになっていました。今のお話で、他の武道等にもということになるのですけども、目指しているのは、やはりあらゆる武道に対応出来る武道館というものなので、特にこの大道場につきましては、板張りの広いスペースになりますので、ここにレスリングのマットですとか、そういった物を敷いて会場にできるだとか、そういったことは想定内だと思います。

また、畳敷きの柔道場についても、レスリングの練習等には使えると思いますので、そちらのほうは使われる団体ですとか、使われる市民の皆さんの意向に沿った形で、施設の計画なり建設が進んで行くというふうにも考えます。

【町田会長】

他にどうでしょうか。先程の PFI という手法ですね。これは、要するに設計自体から運営までということですので、そうなってくると、経費的な部分についても、民間の経費を使っていくという考え方ですか。

【体育課：平原係長】

そうですね、私も県の指針ですとかを読んだ範囲でしかお答えできないのが申し訳

ないのですけれども、設計、建設の段階から民間の資金を入れていくことで、県ではかなり経費の圧縮が出来るというふうに考えているようです。

ちなみに、長岡のプールの場合ですと、私も資料でしか見ていないのですが、全体に110億円ほど経費と言いますか、建設から運営迄の経費を予想していた中で、経費としては24億円ほどの余剰が出たというふうに紹介されていたと記憶しています。

建設から運営までを一貫して民間が受けることによって、そういったマージンが出て来るのではないかと考えています。長岡の例ですと、実際建設から運営までを受けるとあって、会社を1つ起こしておられます。長岡屋内総合プール株式会社という会社なのですけれども、設計に当たっては梓設計という設計事務所、大林組という建設業者、それから管理の業者としては新潟ビルサービス、他にも2、3会社はあったかと思いますが、そういった会社がお金を出し合って、作っている会社ということになります。

【町田会長】

そうなんですね。

【体育課：平原係長】

そういった受け皿作りという面もまた出てきますので、地元でそういった話が来た時は、受け皿を作ったりという協力も出て来るかなと思います。

【町田会長】

分かりました。要は、お金としては県費を使うんだけど、民間の企業を使って出来るだけ安く上げていきたいという考え方ですね。

【体育課：平原係長】

はい。

【町田会長】

分かりました。それともう1点ですけど、この建物自体は県が造ってくださるんでしょうけど、後は駐車場とかそういう所の関係というのはどうなるんでしょうか。それも、県で造ってくれるのですか。

【体育課：平原係長】

はい。県立武道館の周辺の駐車場、県立武道館としての駐車場については、県で造る、県立武道館のものということになると思います。

【町田会長】

この資料の「外部施設」の欄に「駐車場と駐輪場」と書いてありますね。

【体育課：平原係長】

はい。しかし、これが何台になるのか、あるいは県立武道館としてどれくらいの敷地をお使いになるのかというのは、まだ詰まっています。

【町田会長】

まだ決まっていないのですね。それともう1点、現在はテニスコートと駐車場くらいしかないわけですよね。さっき言っておられたサッカー場みたいなものについては、上越市として計画を立てて造っていくという認識でよいのですか。

【体育課：平原係長】

今後、計画対象として検討していくことになります。

【町田会長】

その辺の時期というのは、どんな感じになるのですか。

【体育課：平原係長】

先程も説明させて頂いたのですけれども、その予定やタイミングにつきましては、また状況などをこちらから説明させて頂きながら、発表していきたいと思っております。

【町田会長】

はい、分かりました。他に皆さんはよろしいでしょうか。

【丸山彰委員】

当時計画の段階で、新聞でちょっと見たのですけれども、柔道だったか、剣道だったか知りませんが、思ったより規模が小さいような計画になっているというような事が書いてありました、それは、武道連盟さんの話合いの中で解決してあるのですか。どっちが小さくて、どっちが大きいか、その辺は分かりませんが。

【体育課：平原係長】

そうですね。当初、先程も説明しましたが、基本構想検討委員会が平成25年に開かれておったのですけれども、その中で提示された案として、言葉は悪いのですが、大規模なものを造るのか、中規模なものを造るのか、そういった2案が提示されました。実は検討委員会の中では、中規模案のほうを取る様な形で、報告書はまとめられています。ただ、今回の基本計画がまとまった中で、私たちがこの中身を見させて頂いた中には、特に大道場なのですが、当時の検討委員会の資料の中では大道

場としては1,500㎡程度というような絵図が資料として出ておりました。

しかし、今回の資料の中で、大道場としては、2,000㎡を超えるような大きなクラスということで、提示されておったのです。今回の基本計画の中では、大道場自体2,000㎡となっており概ねこちらの基本計画の中でも、全国レベルの国内大会が開催できるというふうに明言していますので、大きな大会が開けるような規模になっておるのだと思っています。

また、当初の中規模案で提示された大道場では、大規模な大会には…というお声も確かに聞いておりました。その中で、私どもも昨年の11月頃に県知事と県の教育長に「全国クラスの大会が開けるような規模でお願いします」というような要望もさせて頂いておりましたので、今回のこの結果に繋がったのかなというふうに、感じています。

【丸山彰委員】

はい、分かりました。

【町田会長】

他にいかがでしょうか。これ、確認なのですが、この基本計画というのは、要するにこの計画自体は県で作られたものなのですね。

【体育課：平原係長】

はい。そうですね。

【町田会長】

だから少なくとも、この線に沿った設計とか、今後の動きになっていくという理解でよいわけですね。

【体育課：平原係長】

はい。間違いありません。

【町田会長】

分かりました。他にいかがでしょうか。もしなければ、以上でよいですか。

— よしの声 —

【町田会長】

今後、また分からないようなところがあって、教えて頂きたいというふうなことになるれば、連絡を取らせて頂きますけども、当面は多分大丈夫だと思います。ありがとうございました。それではこの件につきましては、これで終了にさせて頂きたいと思

います。

【体育課：平原係長】

ありがとうございました。

— 体育課退席 —

【町田会長】

それでは、自主的審議につなげるための津有区の現状分析についての、同一項目なんですけど、自主的審議に関わるところの今後の方針についてということで、フリートーク形式で意見交換をしていきたいと思います。

前にも一度その様なことで答弁を行ったというふうに記憶しておりますけども、今日も引き続いてやりたいということで、資料についてはNo.2の「自主的審議につなげるための津有区の現状分析について」ということで、少子高齢化についてということと、これが8つくらいある。それと裏側に「前島密」、「住民の意識改革について」それと「その他」ということでございます。

フリートークということで、これから30分程度ですね、取り組みをしていきたいと思います。今日は副会長から順に発言していただきたいと思います。それでは、色々なこととお話し頂ければありがたいと思います。

それと、資料の中に「前島密」についてというのがありまして、この関係につきましては、「前島密翁を顕彰する会」という方々と先般の町内会長との意見交換会の中で、「協力できる部分は出来ます」と言うふうに申し上げていたものですから、それで「どういう事が協力出来るのかということで、検討してください」というふうなことがありまして、顕彰する会と津有区の地域づくり協議会と、町内会長協議会の代表の方で打合せをさせて頂きました。それで、その時に私と牧野嶋副会長で同席させて頂いて、お話を伺ったということです。

それを受けまして、明日、町内会長の皆さんが集まる「健康づくりリーダーの研修会」がありまして、その後に町内会長の皆さんの中で、どういうふうに協力出来るかということを検討するという運びになっていますので、その辺を付け加えさせて頂きます。それでは、副会長をお願いします。

【牧野嶋副会長】

自主審議の中で、以前皆さんから話あって、もう忘れていたかも知れないですけども、この地域の問題は少子高齢化が一番だという内容だったかなと思うのです。その

中で自分自身として、私の立場上の話にもなりますけれども、雄志中学校の子どもたちと、ワークショップ形式と言いまして、この地域を子ども目線で、何が駄目で、何がよいのか、何が欲しいのか、どんなものがあったらよいのかというのを、この20日に、上越市の教育プラザで話し合いをしようというのがありました。毎年11月に、上越市長にそれを各小学生、中学生とグループを作って提言をするというのを、ここ3年くらいやっているんですよ。

それで、今年もそのために中学生からデータとしてアンケートを採った物があるのですが、やっぱり大人目線と子ども目線とは、確かに違います。それで、大人目線の中で見えてくるもの、子ども目線の中で見えてくるっていうものを見ると、でも行きつく先は一緒で、不便だと感じるのは、やっぱり「雪が降って交通が不便」ですとかがありました。あとは、「帰り道に街灯がなくて、暗くて怖い」とか、「買い物に行くのに農村地域というのは、やっぱり車がなければ行けないし、お爺ちゃんお婆ちゃんは車に乗らなければ買い物にも行けない」と言う意見もありました。子どもらしいのが、「この地区にショッピングモールがあったらよい」というとか、そういったものもあったんですけどね。

それを拾い上げる中で、やっぱりこの協議会の中で、この地域には市議会議員の先生もいませんし、やっぱり意見書というのを最終的に何か出して、町内会長会の皆さんが陳情という形で毎年出していますよね。そういったものだけでなく、この協議会としても取りまとめた意見として最終的に出していけたらよいのではないかと、そのために自主審議をやっているというのが、私自身の考えです。

なので、もっと素朴に原点にかえて、「こんなものない」、「こんものがあったらよいな」という意見を出していったらよいのではないのでしょうか。

あまり難しく考えずに、進めていけたらよいと考えています。

【町田会長】

そうですね。確かに言われるとおりです。

【牧野嶋副会長】

取り留めもない話で申し訳ないですけども。私自身は、地域支援事業で、町内会長さんから上がってきた街灯をLED化して整備したりしているのは、何か結構大事なことなのかなと感じております。

【丸山百合子委員】

この間、地域づくり協議会で、街灯を少し増やす意見も出たようですが、この地域は、街灯は少ないことは少ないですね。

【町田会長】

そうですね。太田委員はどうでしょうか。

【太田委員】

私も先程、牧野嶋副会長が言われたように、津有地区の問題点というか、活性化に役立つような色んな組織との対話を重ねて、地域の問題点を具体的にして、「活性化するためにこういうことを援助してもらえないか」というようなことを、市に上申できるような話合いの機会を設けていければよいかなと思います。

【町田会長】

分かりました。では小川委員お願いします。

【小川委員】

牧野嶋副会長から今、出たとおりで、市に要望なり意見なりを提出できればよいのではないかと考えます。

また、その中で一番シンプルに「少子高齢化」、例えば「高齢化」は、平たく言えば仕方ないのですが、「少子化」ですね。「少子化」は、その具体的なプランが何もありません。「ない」というのは言い過ぎですが、極端な話ですが、例えば「少子化を何とかせよ」という要望ですね。そういうところから1つ1つシンプルに出して、必要に応じて肉付けをしたりして、意見書という形にまとめることが出来ればよいと考えています。

それで今、一番よく理解できるのは「少子化」ですよね。急に来年から子どもが500人も生まれて、解決するということはないわけです。それはそれとして。要は、シンプルに何かを要望するとか、それに違った角度から肉付けをしてね、ひとつの要望につながるという手法で、行ったらよいと思います。それと、ダイレクトに「少子化を何とかせよ」という要望ですかね。これに肉付けしなくて駄目なんですけど。そういう観点の話も、大事かと思います。

【町田会長】

分かりました。今言われるように、「少子化」はなかなか問題なんだけど、別に上越市だけに限った話ではないし、全国どこも皆一緒ですね。いずれにしても、牧野嶋副会長からもお話があり、皆さんもそうお考えだと思いますが、結果としてはやっぱり、

議論した中で、何かを見つけて、それを実現というか、形にしていきたいと思います。ただその時に、今言ったように話の中の話だけっていうことでは、どうにもならないのです。だからその辺で、色々これから「少子化」ということは間違いなくテーマとしては理解出来るんですけど、それを「少子化を何とかせよ」という格好で行政に言ったところで、本当にそう上手くなるかどうか、その辺も私は分かりませんが、小川委員が言われるように、1つの単純化した格好での、要望を持っていくということも1つの方法ではないかと思います。次に、手嶋委員はいかがですか。

【手嶋委員】

私は常日頃から思っていることがあるのですが、小学校でも中学校でも、そういう子どもたちの出番というものが、私たちの住んでいる学区はほとんどないです。

だけど、いつも親目線、大人目線で「何かをしてあげよう」という考え方は、子どもたちにとっては嬉しいものではないですよ。自分を当てにしてもらえとか、地域の住民の一員としての仕事があるということは、お年寄りでも小さな子どもでも、皆同じだと思うのですよね。そういった場合に、ある地域では、朝学校へ行く時に、お年寄り方の居る所を通過して、通学路の一部の中に積み込んで、「お婆ちゃん元気？おはようございます。行って参ります。」とか、そういうあいさつをしているようです。その一方で、親が送り迎えをしている所もあるようです。子どもたちが毎朝、挨拶をしてくれたらお年寄りはうれしいでしょうし、子どもたちも、地域の中で自分たちの役割があるということはよいことだと思います。

それと消防の方は、「カンカン」と言いながら、町内を回っていらっしゃるんですよね。あれも、夏休みとか冬休みとかに子どもたちと一緒に、お年寄りの家には、「お婆ちゃん火事には気を付けてね」なんて、声をかけながら回るのも良い方法かなと思います。そういう地域の人たちで、賛同してもらえれば、それは毎日だけでなく一か月に一遍でもよいと思いますし、そういうところから地域の皆さんと一緒にやればよいと思います。

そして、昨日たまたま近くで火事があって、防災訓練をほとんどしていなかったから、いざとなったらどうしたらよいか分からなくて、今考えると、家の前に消火栓があったんですよね。あれも、消防車が来るまでに除雪して、すぐに使えるようにすればよかったのに何もできなくて、ただ消防車が来るのを待っているだけでした。それで、今朝になって「そうか、消火栓の前を除雪しておけばよかったね」という話にな

りました。そんな感じで、日頃から地域の皆さんで話し合ったりする機会が必要だと感じています。

特別、大きなことをやってくれとか、そんなことでなくて、「自分たちの地域なんだから、自分たちで守ろう」という意識を、小さい子どもたちも、一緒に消防訓練などの作業することによって、共に考えてほしいです。そんな地域にしていきたいと思います。

【町田会長】

要するに、地域のお年寄りも一人暮らしの方があつたりした時に、今言われたように、ちゃんと健康で生きておられるのかということを見守るのもよい話ですし、そういう部分も含めて検討して、意見交換していかなくてはいけないと思いました。

服部委員、いかがでしょうか。

【服部委員】

四ヶ所で高齢者のサロンがあつて、お茶飲み会をやっているらしいですけど、そういうものを広められたらよいと思います。

あと、来月新幹線も通るので、やっぱり「前島密」を活用して、観光というような面でも少し力を入れていけたらと思います。ただ、例えばバスが出て津有区内を回るようになれば、景観だとか今ある身の回りをちょっと綺麗にしておくだとか、花を植えるだとか、景観みたいなことを考えられるような地域でいるのも、大切なことだと思います。

【町田会長】

そうですね。新幹線が通ると同時に、27年度は前島密の生誕180周年ということですので、例えば「ここが生誕の地だ」という物語でも作って、アピールできたらよいですね。

【服部委員】

以前、活動支援事業で紙芝居を作ったように、何かPR的なこともできたらよいと考えます。

【町田会長】

はい、分かりました。平岡委員いかがでしょうか。

【平岡委員】

私は平成町ですが、町内も大きいので、色々行事がありますが、なかなか出て来る

人も少ないです。出て来る人も決まった人です。それを何とか、皆さんを集めていきたいと思っています。

行事もありますし、避難訓練とかもありますけど、なかなか集まってもらえる機会がありません。だから、地域の皆さんが興味を持つ、趣味のようなものを見つけて、集まる機会を作るような方向で、何とか出て来ない人も出て来るようになればよいと思っています。

【町田会長】

要するに、地域の活性化ですね。

はい、分かりました。古川委員どうでしょうか。

【古川委員】

ご存知の方もおられると思いますが、うちの町内ここ2、3年で5件新しく世帯が増えました。それと市街化調整区域の関係で、法改正されましたし、もっとPRするなりした方がよいと思います。

「少子高齢化」が問題になっていますが、若い人は進学とか就職で市外に出て行きますよね。それで、卒業しても地元に戻って来ない人が多いです。地元に残る人が結婚しないと、どんどん少子化は進みます。的を絞って検討してはどうでしょうか。

【町田会長】

その的を絞ったほうがよいというのは、「少子高齢化」の中で、さらに的を絞るということですか。

【古川委員】

そうですね。問題点を箇条書きにするという方法もあるでしょうけど、提言として出すとすれば、何かやっぱり問題があって、「検討した結果、我々の意見はこうですよ」という形がよいでしょうか。先程も話しましたが、市街化調整区域でも宅地化できるとか、そういう法律改正とかをPRするとか、あるいは行政のほうで動いて頂くとか、そういうものがあれば一番よいと考えます。

【町田会長】

いずれにしても、津有区の地域協議会ですから、津有区の中の問題を考える必要があって、市全体を考える必要はないと思います。この中で、例えば今言われたように、昨年くらいから市街化調整区域の関係で、住宅を作りやすいように緩和されている部分もありますよね。だからそういう部分で、仮に行政のほうでやっておられる部分だ

けでは不都合だから、何か他にプラスアルファをしてもらえれば、少子化が防げるということに結び付けてくれば、そういう事を提言というか要望として出すということとは可能だと思います。

次に、牧繪委員いかがでしょうか。

【牧繪委員】

今程、古川委員も言われたのですが、「少子高齢化」で自分の町内は、人口が増えなければ、他から来てもらえるような努力というのが必要だと思います。私の住んでいる下池部ですが、ここ2、3年で4、5軒くらい住宅が増えました。実は、津有区は住みやすい町なんじゃないかなと思います。

津有区には、学校が2校ありますから、学校があるから引っ越して来るといふ若い人もいます。ただ、その学校が2校あるおかげで、やっぱり行政区も2つに分断されてしまって、北部地域と南部地域というのですか、昔から小学校のうちは2つに別れて、中学校に入ると皆一緒になるのですが、またそれから別れて、同じ津有地区でも全然知らない世界のような感じを受けることが結構あります。私は今、小学校にお世話になっていますから、戸野目小学校のことは分かりますが、上雲寺小学校のことは全然分かりません。なので、同じ津有区の中なので、もう少し連絡を密にとか、連携を密にと言いますか、お互いに関わりをもっと持ち、壁のようなものを、何とか取り払っていきたいと思っています。

【町田会長】

そうですね、課題としてはそういうことが考えられますよね。

【牧繪委員】

そうすることで、活性化に繋がっていくんじゃないかなと思いました。

【町田会長】

丸山彰委員はいかがですか。

【丸山彰委員】

今の住宅の話に関係することですけども、うちの町内も3軒増えました。また小学校の子どもが4人増えます。少子高齢化対策は非常に難しいですが、それは偉い人にお任せして、ここで討議しても仕方ないのかなと言うのが現状です。

私から2つ、感じたことを申し上げます。実は今年の10月に、地域づくり協議会の生活環境委員会という組織が津有地区にあります。そこで、「まちづくりを積極的に

推進している場所を見学して来よう」ということで、長野県松代地区に行って参りました。そこは来年、大河ドラマのメインになる場所でございますけども、真田幸村の県ですね。そんなこともあって、非常に町が活気づいていました。さっきも手嶋委員が言っておられましたけども、公民館を皆、非常によく使っています。公民館で、月1回ワンコインでお昼が食べられる。皆、材料を持って来て、ご婦人の方が作ったり、そこに子どもたちが集まったりして、色んな会話をして帰って行くようです。そういうことで、本当に町内の公民館をよく使っているのです。それで古い文化財とかそういうものを掘り出して、さらに磨きをかけて、全国に発信するというような、非常に積極的な町でした。

そんなことを見て来まして、さっきもお話が出ましたけど、サロンですね。そういうものも非常によいのではないかと思います。子どもたちも若い人も、親も高齢者も、皆さん一緒になって集える場所を作ってあげるといようなことも、大事になってくるのではないかと思います。

それからもう1つですね。昨年も申し上げたのですが、津有地区、それから諏訪地区、高士地区には偉大な方がおられたわけです。例えば、高士的には「川上善兵衛」、諏訪地区には「芳澤謙吉」、そして津有区は「前島密」。これも新幹線開業とともに、市でもっと力を入れて、例えば循環バスですとか、そういうのを市でもってグルグル回して、駅から市内の有名な所を全部リンクさせて回って歩くというようなことをすれば、その地域も色んなお土産屋を作ったりすれば、上越市も非常に明るくなるのではないかと思います。

【町田会長】

ありがとうございました。次に丸山美和子委員お願いします。

【丸山美和子委員】

私の町内も、3件増えました。それに皆さん子どもさんがいる世帯です。それで、また町内が賑やかになりました。これからまた入って来られる方がいて、そこに子どもさんが2人いるので、よいことだと思います。

それと、私は高齢者の「ぬくもりサロン」というのを担当しています。それが3月末でなくなるそうです。そうすると、また家に閉じこもってしまう方もいると思います。その辺りをどうするのかなというのが、心配していることです。各町内には、健康づくりリーダーがいらっしゃいますよね。そういう方と協力して、講演会でもよい

し、体操でもよいし、できたらよいと思っています。

そして、手嶋委員が言われた消防の関係も、よいことだと思うので、私は早速、町内に話します。できればやっぱり消防団員の人と一緒に、子どもたちにもやってもらいたいと思います。

藤塚は夏祭りもあるし、秋祭りもあります。それには中学生も必ず出てもらっています。

【町田会長】

健康づくりリーダーのことについては、町内会長も関わっていますから、町内会長に言えば、市と連絡を取ってくれますし、市は喜んで来てくれると思います。

【丸山美和子委員】

そうですね。月1回でもよいので、ちょっと集まれる場所を作って頂ければよいと思います。また町内には話したいと思っています。

【町田会長】

はい、お願いします。丸山百合子委員お願いします。

【丸山百合子委員】

「少子高齢化」は仕方ないと言うとよくないかもしれませんが、私の町内は、お年寄りが増えて、若い人が減りました。空き家もあります。寝たきり老人も結構います。それで老人会で、子どもたちの下校の時間に旗振りを、学校の前と平成町の角で行っています。それはもう何年もやっています。地域の人が立っていれば、子どもたちも少し緊張するし、運転手さんも注意すると思います。これは続けていきたいと思っています。この間みたいに吹雪になれば大変だけど、よいことだと思って続けようと思っています。

この間、津有地区で雪上運動会をやりました。それで200人くらい集まりました。高齢者も、若い人も子どもたちも、一生懸命やっていました。このような行事を続けていけたらよいと思います。役員になれば大変だけど、それも良い経験になると思っています。

【町田会長】

はい、分かりました。色んな見方があるでしょうけど、要は子どもたちを見守っているだけでも良い話ですし、それはやっぱり活動としては必要だと思います。

最後に、横田委員お願いします。

【横田委員】

色々と皆さんから意見が出ましたが、この協議会で意見をまとめて、市に提言するものは市に提言する。町内会長会議や、地域づくり協議会に対してお願いするものは、そちらにお願いする。そういう方向でやっていけばよいと思います。

【町田会長】

分かりました。色々と意見を頂きまして、最後に横田委員がまとめてくださったように、要は問題点を把握して、それを実行してもらおう所に届けていくと。それについては、市に提出す部分もあるだろうし、言われたようなことで、津有区の地域づくり協議会や町内会長協議会に提言する部分もあると思います。そういう方向で仕分けしていくという格好になるのかなというふうに私的には思いました。

それと、皆さんのご意見を色々聞いておりますと、「少子高齢化」のお話が多くあったと感じました。その辺を踏まえて次回以降の審議につなげていって、それである時期には結論を出して、提言していくという格好にしたいと思います。どうもありがとうございました。

(2) 地域活動支援事業について

【町田会長】

それでは次に、地域活動支援事業の関係です。前の会議で採択方針等を決定させてもらいましたが、今回は地域活動支援事業の審査スケジュールについて、決めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。これにつきまして、事務局から説明をお願いします。

【小林主事】

— 資料No.3に基づき説明 —

【町田会長】

ありがとうございました。それでは今程、採択までの流れを説明して頂きましたので、分からないところがありましたら質問なり発言をしてください。なければ、中ほどにあります網掛けの部分の「ヒアリングの日時」を決めたいと思います。これについては、5月の中旬ですので、今年度は確か、5月22日くらいに行ったと思いますが、いつ頃にしましょうか。ちなみに、会場はどちらを予定していますか。

【小林主事】

津有分館の大会議室を予定しています。

【町田会長】

分かりました。それでヒアリングを行う第1回は、5月18日の週はいかがでしょうか。その週の火曜日くらいにしますか。19日ですね。件数によっては1日では終わらない可能性もありますので、今年度も予備日ということで、1日押さえたと記憶していますので、来年度も5月19日と、予備日で20日としてはどうでしょうか。

【牧野嶋副会長】

件数によっては、1日で行うのが難しい場合もあるので、予備日は必要ですね。

【町田会長】

件数によってですけど、多ければ19日、20日の2日間で行いたいと思います。

【牧野嶋副会長】

20日が予備日ですね。

【町田会長】

20日を予備日にしてもらいたいと思います。

それから、現場でのヒアリングの関係については、ヒアリングを受けた段階で、現場を見ないと判断できないということになれば、次の20日か21日、22日、その辺で現場でのヒアリングを行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

【牧野嶋副会長】

現場でのヒアリングは、あっても1件か2件という話だと思うし、1日あればよいと思います。

【町田会長】

そうですね。

【牧野嶋副会長】

一応21日と22日としておいて、実際にあがってきた提案を見て詳細を決めてはいかがでしょうか。

【町田会長】

そうですね。現場でのヒアリングということで、とりあえず5月21日と22日を予定しておきます。それで、現場を見る必要がなければ、必要ないということで対処していきたいと思います。

それから、最後ですね。採択決定を行う第2回目の会議は、4日木曜日にしましょうか。6月4日でどうでしょうか。

— よしの声あり —

それでは、日にちの確認させていただきます。④ヒアリングについて5月19日、予備日を20日とします。それから現場でのヒアリングが必要であれば、5月21日、22日を予定しています。それから、採択の決定につきましては、6月4日ということで、とりあえず決めさせていただきます。それでよろしいですか。

【小林主事】

5月19日のヒアリングについて、開始時間もご検討いただきたいと思います。

【牧野嶋副会長】

今年度は、提案件数が9件で、ヒアリングは6時から始めましたね。

【町田会長】

そうですね。来年度も、午後6時で対応させてもうということにさせていただきます。それで、各団体の都合を考慮して、順番を決めていきましょう。

【牧野嶋副会長】

このヒアリングの前に、委員同士で意見とかを出して、共有化するような作業をしないでも大丈夫ですか。

【町田会長】

提案の内容にもよりますね。その時の状況によって考えましょう。

【牧野嶋副会長】

件数、内容によりますね。

【町田会長】

そうですね。それでよろしいでしょうか。

4 その他

【町田会長】

それでは、次第のその他に移ります。地域協議会だよりの速報版についてです。本日の会議の速報版を事務局で作成しまして、委員の皆さんから町内会長さんへ3月12日までに配布して頂きたいということで、12日までには皆さんのお手元に届きますので、関係する町内会で配布してください。

それから、次回の開催ですけど、行政改革推進課からの報告が予定されていまして、3月の中旬か下旬に1回会議を開催したいというふうに思います。

— 日程調整 —

【町田会長】

今回は、3月26日木曜日、午後6時30分にさせていただきます。

【丸山百合子委員】

会場は、ファームセンターですね。

【町田会長】

はい。ということで、今のところ行政改革推進課からの報告があるということなので、3月26日にファームセンターで会議を開催したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

他に、事務局から何かありますか。

【小林主事】

ありません。

【町田会長】

委員の皆さんからも、何かあればお願いします。

5 閉会

【町田会長】

ないようなので、これで本日の会議を終わらせて頂きたいと思います。どうもありがとうございました。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。